



発行日：平成 29 年 2 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 8 回川の地域部会を開催しました！

1 月 20 日（金曜日）に第 8 回川の地域部会が豊田市職員会館にて開催されました。今年度の川部会の活動成果報告と次年度の活動計画について話し合い、全体会議に諮る内容について確認しました。



日 時：平成 29 年 1 月 20 日（金）13:30～15:30

会議場所：豊田市職員会館 3F 会議室

参加者：17 名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

1. 本日の話し合いで決まったこと



■今年度の活動成果報告について

- 今年度は、特に本川モデルと家下川モデルについて、進捗することができました。地先モデルについては課題が残ることから、次年度の活動方針も含めて活発に議論しました。
- 活動成果のまとめには、具体的な内容も簡潔に追記し、成果がより詳細に把握できる資料とします。また、ニュースレターなどに使用した図や写真を効果的に活用した報告資料とします。



■来年度の活動計画について

- 本川モデル
 - ・来年度は、総合土砂管理の取組み状況の把握に加えて、天然アユ生態調査実行委員会や愛知県における石組み埋設等の取組みについても情報共有し、意見交換を実施します。
 - ・矢作川の水質の状況について情報共有し、意見交換します。
- 家下川モデル
 - ・家下川湛水防除事業の進捗状況に関する情報共有と意見交換については、来年度も継続していきます。
 - ・今年度の家下川現地見学において、ひょうたん池に外来種が大繁殖していたことから、来年度は水量不足の問題に加えて、生物多様性の改善に関する内容についても意見交換する予定です。
- 地先モデル
 - ・地先の課題を解決するためには、土木工学の視点だけでなく総合的な観点から検討する必要があることから、水循環に関する先進事例として、岡崎市水循環推進協議会で検討されている岡崎市水循環創造プランに関する勉強会を実施する予定です。
 - ・矢作川流域圏内の市町村における各活動団体に対する取組み内容を整理してはどうかとの提案がありました。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 今年度の活動成果報告について

(・意見 ▶ 回答)

全体会議資料案のうち活動成果報告について事務局より説明があり、意見交換をしました。

《川部会の活動成果について》

- ・今年度は、矢作川漁業協同組合の方がいつも来てくださっていたので、とてもよかった。我々がちょっとわからないことがあったら、すぐに具体的なお話ができたので、とても前進できたと思う。家下川モデルは、色々な関係者が集まってかなり具体的に協議ができた。足りなかったと思うのは、地先モデルである。川部会が発足した当初は、支流で活動しておられる方がたくさん参加していた。もっと魅力があるような川部会にしていくためには、どうしたらいいだろうか。今年度は活動団体へのヒアリングを実施しなかったが、今後はどうしていくか。(内田)
 - 活動団体側に何かメリットがないとヒアリングも難しい。別の河川で、活動団体を一堂に会するイベントを実施したが招待した団体数と比較して、参加した団体はかなり少なかった。(本守)
 - 山部会はヒアリングをうまくやっていると思う。ヒアリングは山・川・海でわけて考えずに、なるべく合わせてやっていくとよい。(高橋)
 - 豊田市内の団体は、うまく活動できている団体が多いように思う。市町村が市民団体の活動に対してどういうことをしているか調べてもよいと思う。(内田)
- ・本川モデルの白浜工区でのモニタリング内容や加茂川の整備進捗などについては、もう少し具体的に記載した方が他の部会の方がわかりやすいと思う。また、ひょうたん池については水量不足の問題だけでなく、外来種(ホテイアオイ等)の繁殖などの問題もみられたことから、「等」という言葉を入れていただきたい。(野田)
- ・高橋上流の石組み埋設の図がわかりづらい。わかりやすい図にしてほしい。(本守)
- ・家下川の魚の滞留場の図をつけてほしい。(内田)

《流域連携テーマの活動成果》

- ・奥矢作森林フェスティバルでの集客状況や一般の方や子どもたちにとって関心があった内容についても書いてほしい。人工干潟の効果のグラフに凡例をつけてほしい。(野田)
- ・流域ものさしを紹介しているページのURLをつけてほしい。(山本)
- ・神奈川県酒匂川の川沿いにサイクリングロードがあり、駅から歩いて行けるとところにレンタサイクル貸出場や駐車場が整備されており、「砂の駅」の参考事例となると思う。今後の話し合いで提案していこうと思う。(内田)

(2) 来年度の活動計画について

全体会議資料案のうち今後の活動計画について事務局より説明があり、意見交換をしました。

- ・生物生産性に関する項目についてもモニタリングできると良いのではないかと考えている。(服部)
 - 川部会のメンバーでモニタリングをするのは難しいが、矢作川研究所が事務局となっている「天然アユ生態調査実行委員会」の中で水質の問題が議論されている。この委員会の取組みについて情報共有してはどうか。(内田)
 - 現在までの委員会の検討内容について、次年度、情報共有させていただく。(早川)
- ・瀬の消失やアーマコート化の経年変化の状況が、面積的に把握できるよう図化できないか。(野田)
 - これまでの研究成果で使えそうなものは無いか確認してみる。(吉川)
 - 久澄橋直下の瀬の低下状況にも注目してもらいたい。(内田)
- ・地先モデルについて、本川沿いを考えていくのか。流域として考えていくのか。認識が統一されていない。(山本)
 - 地先モデルについては、社会学、流域学的な観点が必要だと思う。そういった内容を専門にしている学識者に来ていただくことはできないか。(内田)
 - 岡崎市の水循環推進協議会で検討されている岡崎市水環境創造プランは全国のモデルとして検討されている。来年度でとりまとめられるようだ。ぜひ話を聞いてみたい。(吉川)

(3) 振り返り

よかったと思うこと: かなり具体的に成果、計画の議論ができた。/本年度のまとめができ、来年度の課題が整理できた。

よくなかったと思うこと: 参加メンバーがやや少なかった。中部電力にも来ていただきたかった。

今後取り組んでいきたい活動など: 地先モデルの検討参加。地域間の交流、上下流の交流など川からみた地域づくり。

今後の流域圏懇談会の予定



■第6回全体会議 平成28年2月24日(金) 14:00~ 安城市民会館3F大会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

